

マーケットの動き (2022年12月12日～12月16日)

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。

13日に発表された米国CPI（消費者物価指数）の鈍化や14日のFOMC（米国連邦公開市場委員会）で利上げ幅が縮小されたことなどが金利低下圧力となった一方、日銀金融政策の修正観測の高まりや15日の20年国債入札が軟調な結果となったことなどが金利上昇圧力となり、国内長期金利は前週末と同水準で週を終えました。

クレジット市場は、年末年始を控え流通在庫が減少し、需給改善の兆しがみられました。

投資環境見通し (2022年12月)

国内長期金利は、日銀の許容する変動幅の上限近辺で推移

海外においては利上げペース鈍化の動きに加えて金融引き締め政策からの転換時期が意識される一方、国内においては日銀総裁の任期満了が近づくとつれて将来的な金融政策の修正観測が根強い中、国内長期金利は引き続き日銀が許容する変動幅の上限近辺で推移するとみています。

	12月16日	変動幅 (騰落率)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り (日本、%) (変動幅)	0.25	▲0.00	0.01	0.00	0.21
NOMURA-BPI総合 (騰落率)	371.67	▲0.31%	▲0.42%	▲1.19%	▲4.23%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

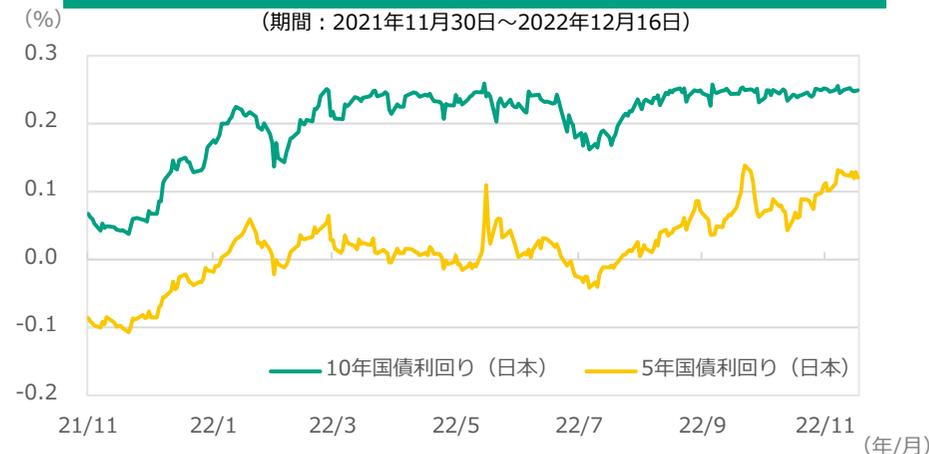
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202212_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

(期間：2021年11月30日～2022年12月16日)



NOMURA-BPI総合指数の推移

(期間：2021年11月30日～2022年12月16日)

